



苦工同窓会 関東六華会

会報 第18号 2021.4.20

発行責任者

石堂 鉄雄

編集委員

櫻井 武春 首藤 真史

大澤 哲司 瀬谷 政夫

”母校の創立 100 周年 (2023) に 向けてさらなる絆を”

苦工同窓会支部「関東六華会」会長 石堂 鉄雄

関東六華会会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年からのコロナ禍の中、如何お過ごしでしょうか。このコロナ感染予防のため、自由な行動が制限されマスクをつけての外出、1 昨年迄の生活様式とガラリと変り大変ご苦労されていると推察いたします。不幸にも感染した方がおられましたら心からお見舞い申し上げます。

全国的にあらゆる活動が自粛に追い込まれている中、令和2年度の当会の各種行事も中止せざるを得ない状況でしたが、第3回四役会と幹事会のみは、令和3年度の事業計画策定、特に総会・懇親会の取り扱いについて決めなければいけないため、3密を避け開催いたしました。

四役会、幹事会で協議の結果、6月に開催予定であった総会・懇親会は現下の情勢を鑑み、安心して皆様をお迎えできないとの判断から、残念ではありますが昨年度に引き続き中止することにいたしました。これに伴い今年度は役員改選の年ですが、特例として1年間延長して、コロナが収まると予測される来年の総会にて新人事のご承認をお願いいたします。

会報に付きまして、活動が制限されている中、話題が少ないことから発行は如何なものかとの思いが有りましたが、年に一度皆様と繋がりを持つ手段ですので紙面を削減して発行することにいたしました。年会費のご協力をお願いに付きまして、同様の思いが有りましたが、会の継続性を維持するためにもご協力をお願いいただくことにしましたので、ご配慮いただきたくよろしくお願い



いたします。

なお、長年本部の幹事長を務められた紺屋 隆さん（機械昭36年卒）が勇退され、後任に柏倉幸一さん（工化昭45年卒）が新幹事長になられ本会報に投稿頂きましたことをご報告いたします。

次に、母校は大正12年（1923年）3月5日に設立許可され、2年後の令和5年（2023年）に創立100周年を迎えるに伴い、同年10月に記念式典の開催を予定しています。

当会としても、昨年からの母校の更なる発展を願ひ、本部とも相談し学校、後輩達に記念になるものを寄贈したいと考え、皆様からのご寄付を募っております。多くの会員の皆様からご賛同いただき、お陰様で目標の6割ほどのご協力をいただいておりますが、まだ目標額に達していないのが現状であり、昨年度ご都合により払い込みいただけなかった皆様には趣旨をご理解いただきご協力の程よろしくお願ひいたします。

なお、昨年度ご協力いただいた皆様におかれましても、心苦しいことではあります。趣旨をご理解頂き引き続きご協力いただければ幸いに思っています。

私、8年前の90周年の記念式典に出席しましたが、厳粛な中で挙行され、在校生が奏でるブラスバンドによる校歌は何とも厳かで身の引き締まる思いに、大感激したことが思い出されます。創立100周年の節目の記念式典は更に盛り上がると思しますので、巡り会えた皆さんと共に出席して、盛大に祝い楽しみたいと思ひます。

関東六華会は「母校の誇りと同窓会の絆」を信条として「明るく楽しく、人が集まり、助け合ひのできる同窓会」を目指して今後も活動して参りますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。



今年度初めての幹事会 (2021.2.20)

同窓会本部 幹事長就任のご挨拶

幹事長 柏倉 幸一 (工化 s45)

この度、同窓会第9代幹事長に就任いたしました。昨年の正月早々に発生しました新型コロナウイルスによる感染拡大に伴い、5月の定期総会・懇親会は緊急事態宣言が発せられたため中止となりました。

役員改選をはじめ、報告・協議事項は理事役員に対し、「書面決議理事会審議書」による特例として同意して頂きました。本来総会に諮り承認が必要でしたが、総会の開催が出来ない中、理事会(案)を皆様にお認め願う次第です。

今回の役員人事で幹事長への依頼があったのは、一昨年の秋頃、紺屋前幹事長から健康上の理由で後を継いで欲しいとの打診でした。歴代の幹事長は同窓の教員が勤めており、企業勤めであった私で良いものかと悩みました。幸いのことには役員の皆様方をはじめ周りの方々は愛校心が強く、協力的であることからお役に立てられるのではと思います、重責ではありますが引き受けた次第です。



前幹事長は教員を退職後、17年間の永きに亘り80・90周年の周年行事をはじめとして、同窓会誌「六華」の冊子の見直しや多くの改革を役員のととして尽力されて来ました。この4・5月からの事務引継ぎの中では、私が携わって来た数年間の監査役とは大違いで、日々の業務をこなしながら過去の資料に目を通していると、周年行事の募金活動では全道・市内近郊企業を小まめに周り多額な寄付金を集めるなど、資料から苦労の跡が見られ今後の参考になるものが大切に管理されていました。これらのことを思うと、改めて身の引き締まる思いを感じております。

さて、私は昭和42年4月に工業化学科に入学したのが苦工との関わりが始まりで、入学時強烈な記憶として残っているのは旧体育館での応援団に囲まれての応援歌の指導でした。当時15歳の1年生には怖く微動だに出来ない長い時間を過ごしたことが思い出されます。学年ごとの立居振舞いなどクラブ活動を含めた3年間は挨拶・礼儀の基本となりの忍耐力を鍛えられたことが、社会人になってから初めて気付いたものでした。

私も50歳を過ぎたころ職場の先輩(上司)に同窓会の監査として役員をされている方がおり、定年退職を機に引き継いで欲しいとの要請があり、当時としては先輩の申し入れは絶対であるとの教えから二つ返事で受けた次第です。卒業後一度も学校(旧・新校舎)に足を運んでことがありませんでした。役員としての会合で新校舎の同窓会本部へ行く事が多くなり、本部総会にも参加することで、大先輩や他業種の方々と会話していると、苦工魂・強い絆を感じる機会

となっておりました。

しかし、関東六華会から出席されていた歴代の川上会長・石堂会長とは面識がないため話す機会はなく、そのため関東六華会の状況などは全く判りませんでした。そこにこの度、広報担当の櫻井武春さんから本部の近況報告としての寄稿要請がありました。まず会報9号から拝見させて頂き支部活動・支部名改称をはじめとした歴史を知り、また、毎年の総会会場が7丁目銀座ライオンとあり、私が20年ほど前銀座4丁目の本社で数年勤務していたことから大変懐かしく思い出されました。

さて、本校は2023年10月には、創立100周年を迎えます。昨年の末から100周年記念事業協賛会が発足し準備を始めております。この記念すべき時に、同窓会員の皆様・現役の在校生の方々と共に関わることが出来て大変嬉しく思います。創立から一世紀に亘る歴史と伝統をいつまでも語り継がれる記念事業にすべく職務を果たして参りますので、よろしく願い申し上げ新任のご挨拶といたします。

■略歴

苦小牧市出身	昭和26年8月6日生
昭和45年3月	苦工 工業化学科卒業
昭和45年4月	王子製紙(株)入社 苦小牧工場勤務
平成23年3月	王子製紙(株)退職
平成23年4月	(株)苦小牧民報社入社
平成30年8月	(株)苦小牧民報社退職
平成30年9月	苦小牧工業高等学校 校務補
令和元年9月	苦小牧西高等学校 校務補
令和2年4月	苦小牧工業高等学校 同窓会

苦小牧の姉妹都市 八王子の歴史紹介

寛政2年(1800)八王子千人同心頭 原半左衛門胤敦(たねあつ)が同心100名を率いて、蝦夷地開拓と警備のため勇払と白糠に移住しました。しかし現地の気候の厳しさや開墾地の収穫が乏しく、病人や死者が続出して4年ほどで開拓を終了しました。

この時の史跡や記念碑は勇払、鶴川、苦小牧に整備されて残されていますが、この歴史的縁が基で、八王子市と苦小



勇払千人同心頭影彰碑(市民会館前)

牧市が姉妹都市となりました。(昭和48年)

この内容は関東六華会ホームページ・会員の広場「八王子千人同心と蝦夷地開拓」に詳しく掲載(H31.2)していますのでご覧ください。

蝦夷地開拓を主導した千人頭 原胤敦は、後に八王子に戻り幕命により塩野適斎、植田孟縉とともに「新編武蔵風土記稿」の編纂に従事しました。

原胤敦及び弟新助の墓は、本立寺(八王子)にあり、傍らに苦小牧市から贈られた石灯籠があります。



苦小牧市寄贈の石灯籠

八王子千人同心には、江戸幕府の職制の一つで、
・徳川家の警護・甲斐口の警備と治安維持・東照宮の防火と警備・蝦夷地の開拓と警備、更に戦いの時は、関ヶ原の戦いや大坂冬の陣、大坂夏の陣などにも出陣しています。

また、新選組の近藤勇、土方歳三、井上源三郎など多摩地区出身の隊員が大勢いますが、それは武士よりも強い百姓を目指した千人同心たちの武術(大平真鏡流、天然理心流)や刀剣鍛造(下原刀)の地、千人同心の絆など、今も残る多摩人の気質が礎であったといえます。

八王子は、幕末の歴史の宝庫です。ここも是非歴史散策をしてみたいと思います。(散策の会)

“有志親睦ゴルフコンペ”開催しました

コロナ禍の折、公式行事が軒並み中止せざるを得ない状況下、六華会親睦ゴルフコンペも公式的には断念し、有志による親睦ゴルフコンペに変更して行われました。

11月9日(月)ポカポカ陽気のもと、南総ヒルズカントリークラブ(千葉県富津市)に3組・11名の参加者を得て東コースからスタートしました。丘陵コースとはいえ、東コースのスタートホールは谷超えのロングホール、何人かのボールは谷に吸い

込まれてのスタートとなりました。

どなた様でしたか、3番のロングホールにてティショットがOB、前進4打からも5連続OBで、ギブアップするという一幕もありました。

そんな中で、90台にまとめ、ハンデにも恵まれた大澤哲司さん(s43電)が優勝、90台前半であがった橋本雅人さん(s43電子)が2位に、3位には90台中盤でまとめた篠原和行さん(s43土)と43年卒のワンツースリーフィニッシュとなりました。

ベストスコアは81の福澤光男さん(s45機)が獲得、前回優勝の松原悟さん(s43土)は、BB賞を獲得して存在感を示しました。

遠方からの参加者もいたため、7名がロッジに前泊しました。コロナの状況を考慮し、前回のような前夜祭的な酒宴はとりやめ、3密を回避しての食事会となりました。石堂会長、篠原幹事長からはお酒やおつまみをたくさん提供していただき、みんなで美味しく戴きました。宿泊者にはGo to トラベルが適用されゴルフを含めた料金が割引となり、さらに地元郷土品のプレゼントもありのお得感たっぷりのGo to ゴルフとなりました。

今回は、新型コロナが終息し公式行事として、開催出来ることを会長以下みんなで願っております。

(篠原和行、菅原雅和、福澤光男)



後列：篠原(s43土)、菅原(s45機)、松原(s43土)、福澤(s45機)
橋本(s43電子)、熊倉(s43電) 前列：金本(s45電子)、南部(s41建)
三橋(s41工)、石堂(s39土) 大澤(s43電)

SANKO

管・消防施設・土木・建築工事

有限会社 三興エンジニアリング

代表取締役 鈴木 正夫 (機械43年卒)

〒373-0035 群馬県太田市藤久良町48-49

TEL: 0276-31-3499

E-mail: sankoeng035@ad.wakwak.com

ふるさと便 “日高線廃線のニュースに”

日高線 鷓川～様似間廃線決定 (2020.10.23)



JR 鷓川駅を苦小牧に向けて発車
後方が廃線 (2021. 4～) の決まった線路

日高線を利用していた者として、いまさらながらですが日高線について少し調べてみました。元々は明治42年に王子製紙で使用するパルプ用原木の輸送用に三井物産が「苦小牧～鷓川」間に敷設した専用馬車鉄道が始まりとの事です。その後は、昭和2年に国有化し最終的に「苦小牧～様似」間が全通して日高線となりました。当初の予定では様似から襟裳岬を回って広尾を経て帯広まで結ぶ計画だったそうです。

日高線は鷓川より東は、どこまでも水平線が続く美しい太平洋のすぐ近くを走り、陸側にはサラブレッドを放牧するのどかな牧場風景など、北海道らしい広大な風景を楽しめる路線でしたが、2015年1月の高波被害により不通になった以降、補修できない状況が続いていました。採算面からバスへの転換を決定しましたが、廃線は惜しい限りです。

苦工へ通学当時、実家は線路沿いで清島駅近くにありましたので、毎朝、線路を走り、駅まで列車と競争しながら乗車・通学していました。停車する各駅で乗ってくる同級生たちと他愛もない話で盛り上がりながらの汽車通学(ディーゼル機関)が、今は楽しく懐かしい思い出です。(s43 電 大澤)

散策の会予告 「江戸(東京)の治水大事業」

この所、異常気象と言われて全国で集中豪雨による山崩れや河川の氾濫など、過去に経験のない事態が頻発する様になったと感じています。

“水を制するもの、国を制する”と言われる程に、特に重要な事業であるが、所詮自然を制するは無理と言わざるを得ない。

徳川家康が江戸入府の時に、目の前の江戸湾に面した広大な湿地帯や領内を流れる暴れ川などを見て、江戸を東日本随一の大都市に仕立てるべく、利根川東遷事業、荒川西遷事業など、60年間も掛けて大胆な治水大事業を成功させました。

しかしその後の歴史は、何度も打たれ打たれても立ち上がり、改修し続けて来た先人達の苦勞と努力には、只々敬服する思いです。そんな歴史と、今もなお続く治水事業の一部を見聞したいと思えます。

10月30日(土)開催予定です、大勢の参加を期待しています。(申し込みは事務局まで)

- 主な見所
- ・渡良瀬遊水地と消えた谷中村
 - ・関宿城博物館
 - ・首都圏外郭放水路 (地下神殿)



首都圏外郭放水路

編集後記 今号はコロナ禍で記事が少ないことから、小ページでお知らせになりました。間もなく活動再開して、皆さんとお会い出来るものと楽しみにしています。それまでどうぞご自愛のうえ、お元気で過ごし下さい。(広報担当)

日々異なる20種類以上の
おばんざい大皿料理をご用意!

大人の隠れ家!

ふるさとの味 蛸 ほたる

〒103-0014

東京都中央区日本橋蠣殻町2-5-4

パークハイツ日本橋蠣殻町2F

地下鉄半蔵門線水天宫前5番出口から1分

TEL: 03-5652-5988

定休日: 日曜日/連休になる祭日

営業時間: 昼 11:00~14:00

夜 17:00~23:30

